

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770403160		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホーム あさがお 西ユニット		
所在地	〒974-8261 福島県いわき市植田町本町1丁目11-4		
自己評価作成日	令和3年11月9日	評価結果市町村受理日	令和4年1月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和3年12月13日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりの人格を尊重し、希望を伺いながら、自立した生活が継続できるように支援している。</li> <li>外出が制限された中、食事で季節を感じていただけるように、旬の食材を多く使い、毎食バランスの良い手作りの“家庭食”を提供し、楽しく食事ができるように心がけている。</li> <li>職員一丸となりコロナ感染予防対策に取り組み、ご本人・ご家族ともに安心して生活できるよう面会対応等工夫して継続している。</li> <li>協力病院とは連携を密にし(365日24時間オンコール体制)、早期発見・治療により、健康維持に努めている。</li> </ul>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を、毎年年度末に職員全員で見直して、時代にあった支援ができるように努めている。その際理念に基づく目標を作成し、日常ケアに具体的に反映させている。また、目につくところに理念を掲げ、職員全員で共有できるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。コロナ感染予防の為 隣組総会や地区のお祭り、清掃や避難訓練の行事は中止となってしまったが、回覧板を通じてご近所とのやり取りは継続できている。隣組内のパン屋からは毎週水曜日に焼き立てパンを届けてもらい、新聞屋からは朝刊を届けてもらい、いつも見守って頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護相談や認知症についての相談はいつでもお受けしている。当ホームだけでは解決できない場合は法人内に繋げて、相談された悩みが素早く解決できるように心がけている。子どもかけこみ110番に登録。また、AEDを設置、地域に貢献できたらと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	コロナウイルス感染防止の為、書面にてホームの取り組みや活動内容等を報告し、会議メンバーからはそれについて書面にて率直なご意見を頂いている。書面でのやり取りではあるが、日々のサービスの向上につなげられるように努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは市役所や支所に出向いた際や、電話にて連携を取り、協力関係を築いていけるように努めている。令和2年度には冷暖房設備を、令和3年には避難経路であるデッキを 国の補助金事業で新調工事を行った経緯もあり市の担当者とは話をすることが多く持っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設け、研修を行い身体拘束のないケアを理解し実践している。玄関は道路に面している為ご家族の要望でロック式になっているが、職員が対応できる範囲で開錠する時間を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止についての研修を重ね、どのような行為が虐待に当たるのか具体的に知る事が大事で、それが防止に繋がると考えている。虐待防止のチェックシートを用い職員自らの行動を見直す機会を持ち、同時に認知症についての勉強も行き、専門職として支援ができるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については当ホームではまだ実例がなく、勉強の必要性を感じている。コロナウイルス感染予防の為、外部研修に参加する機会が激減。安全に学べるようにZoom環境を整備した。グループホーム協議会や法人内でも情報交換を行い、勉強の機会を持つように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族の不安や疑問にはきちんとご理解いただくまで丁寧に説明するように努めている。契約時の場での説明だけでは行き届かないこともあるので、予め契約書を読んでいただき、契約時に再度説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議の際には施設や職員に対する意見や要望を伺い、その意見等は速やかに対応するように心がけている。外部にご意見等が言いやすいように受付電話番号を掲示している。苦情があった際には法人内苦情解決委員会で第三者委員を交えて速やかな解決ができるように準備できている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者も兼務で介護に携わる事で、問題点や改善が必要な点等を共有できていることから、意見や提案が出やすい環境が作れていると思う。出た意見はミーティング等で相談し合い実践に移している。連絡ノートを活用し、情報の共有に努め、処遇の統一を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の希望や意見を聞き、個性や得意なところを生かして、働きやすい環境を作れるようにと考えている。法人本部は就業規則(育児・介護休暇、コロナ対応等)をこまめに見直してくれており、働きやすい環境への努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にはオンライン研修も含め、職員の希望や経験に応じて出席している。その内容を内部研修で復命報告し周知することで、技術・意識の向上に努めている。資格取得制度を設け、1資格10万円までの補助をし、働きながら資格取得ができるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会のZoom管理者会議には毎回出席し、情報交換やアドバイスによりサービスの質の向上につながっている。また勿来田人地区中地域ケア会議に委員として参加しており、地域の他施設や医療機関・警察消防等とのネットワーク作りもできている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時期は以後ホームで安心して生活するために大事な時なので、初期の聞き取りをとっても大切にしている。本人が繰り返し話す事や好きな事、家族や仕事のこと等すべてメモし、ご家族からの情報も加えて「自分史」を作成、職員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時にはご本人以上にご家族の不安も大きい場合があるので、家族の話もしっかり聞き、思いを理解し寄り添いながら関係性を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時には本人やご家族と十分に話し合い、「その時」に必要な支援やサービスを検討。その後状態をみながら段階的な支援ができるように努めている。法人内の他施設と協力病院主治医と週1回会議を行っており、情報共有と連携の準備ができている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活を共にする中で、利用者と職員がお互いに思い合い、支え合い、学び合う関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のあさがお通信等により生活の様子や心身の状態をお伝えしている。受診時や服薬変更になった際にも連絡している。ご入居後もご家族の協力がが必要な場合は関わっていただけるようお願いし、皆さん快くお受け下さっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人の来訪も多く賑やかなホームだったが、コロナで一変してしまった。手紙や電話でのやり取りは続いているが、馴染みの床屋に出向く事はまだ暫く再開はできない。毎月来て下さっていたボランティアさんは、今も絵手紙や紙細工をポストに届けて下さっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新型コロナウイルス対策の為に席を離したり居室で過ごすこともあったが、時には皆で距離を取りながら集まり、風通しの良い屋外で日光浴し利用者様が孤立しないように努めた。仲の良い利用者様同士と一緒に過ごしてもらい安心してもらえるよう努めた。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	せいざん荘に移られた方など、訪問する際には経過を聞いて関係を保っていきけるよう努めている。ご家族様にお会いした際も、困っていること等ないか話を聞き、頼ってもらえる・安心してもらえるような関係を気付けるよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々身体状況やできることも変化していくので、それに応じた過ごし方を提案している。また、居室で過ごしたい方、リビングで皆と過ごしたい方等、意向に合わせている。ずっと居室で過ごす事が無いように、活動と休息時間を決めメリハリをつけている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々のコミュニケーションの中から生活歴を聞き取り把握に努めている。生活歴に応じて本人の好きなことや得意なことを活動に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を毎日日誌に記録し、他職員と共有、申し送りしている。変わったことや改善点があればミーティングを実施して把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向、医師の見解を踏まえ、現状に即した介護計画を作成している。より良い生活を送る為に、都度心身の状況を把握し、職員のミーティングなどでの意見も踏まえて計画を立てている。状況が変化する際は、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアに効果があるか、気付きを得る為にも、実践やその結果、行動や会話などを個別記録に記入している。現場に居合わせない職員にも状況がよく分かるように記入し、全員が把握できるように努めている。記録に記入されていることについて注意深く観察し、体調変化の早期発見に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新型コロナウイルス対策の為、外泊・外出の制限などがあり、対応しきれない部分もあったがより適した支援を考え、他機関との連携を図った。特に協力医療機関との連携は行っていた。(週二回の往診。)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でホーム内生活のみが現在の在り方であり、その中で、いかに利用者一人一人が生き生きと日々を送るかは、今まで培った活動メニューを基に支援することである。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関(週二回の往診)があり、医療機関と本人やご家族とホームが密に連絡を取り支援している。また、ご家族が希望する医療機関に受診できる様支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	特に、命に係わる重大な体調の異常の際は協力医療機関に上申し、早急な対応に努めている。協力医療機関は365日24時間体制で受け入れてしてくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が出た際は、ほぼ毎日面会に出向き現在の状態の把握、また生活物資の補給や洗濯、整容を行ってきた。御家族の面会が出来ない場合は、ご家族に状況を連絡し経過報告している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご意向を確認するが、改めて重度化した場合や終末期になった場合、早期に家族等・主治医と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	コロナ禍で実技系の外部研修等はない為、オンライン研修に参加し、ホームミーティング時の研修や朝のミーティングなどで共有をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ほぼ毎月、自然災害や火災を想定し、昼夜も加味した訓練を実施。利用者、職員共に参加している。9月には避難経路のデッキ改修工事も完了し安全な避難が可能になった。また隣組の協力を得て、h29年緊急時応援連絡網を作成してある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊重とプライバシーについて職員一人一人が理解し責任と自覚をもって対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような環境と選択肢を用意し自ら考えて選択できるよう一人一人に合わせた場面作りに心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのようなことを望まれているのか傾聴し出来そうなことを提案。無理なく一人一人のペースで体調やその日の気分を配慮し支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みを尊重しながら季節に合った身だしなみができる様さりげなく助言したり、また自己決定が難しい方には二択からどちらか選んでもらうなどしている。清潔感のある身だしなみの継続を心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	旬のものを取り入れて季節を感じて頂いたり嗜好も取り入れたり、芋などの皮むきなど下ごしらえに参加してもらい食事の楽しみを感じていただける様日々努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事の提供。健康に配慮している。アレルギー、塩分制限、嚥下状態など一人一人に合った食の提供をしている。水分確保も難しい時などは甘さ、温度など飲みやすくし提供を工夫し支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの誘導を行い習慣化している。歯磨きができない方にはブラッシング介助をし、うがいができない方には口腔内清拭をしている。夜間は義歯を洗浄・消毒をし清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて統計分析を行い、利用者ごとの排泄パターンを把握し、尿意のない方も時間を見計らってトイレ誘導し、便座での排泄の維持ができるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立は常に野菜を多く取り入れ、それに加え便通に効果がある果物・乳製品・海藻類とバランス良く提供している。適度な運動も行っているが、車椅子の方は便秘しがちであり、排泄チェック表で便の統計分析も行い、主治医と連携して服薬にてコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は利用者の体調や希望に応じ、週2回～3回実施している。季節には菖蒲湯やゆず湯を行い楽しんで頂いている。職員と1対1の入浴で、気持ちが打ち解け、色々な話を下さる方もいる。同性介助や時間帯など希望に沿えるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はリビングで皆で揃って体操や家事・レクレーションなど活動する時間を設けている。一日の流れの中で、適度な疲労感から自然と夜間安眠に繋がるように支援している。温度や照明などもその方にあつた支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬をファイリングし、職員が服薬内容を把握しやすくしている。服薬内容に変化があつた際にはその都度申し送りして、飲み忘れや誤薬がないように慎重に確認を重ねて服薬介助している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に作成した自分史を利用し、得意な事や好きな事、個々の能力に応じて仕事を作ってお願ひしている。「コーヒーが飲みたい」と希望された方がおり、持病との兼ね合いから、低糖質シュガーを用意し対応するなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響もあり、外出や面会が困難になっている。少しでも気分転換になる様、車の中から季節を感じるドライブ等計画し、天気の良い日には施設駐車場での日光浴行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の管理能力に応じ所持して頂いたり、使用する支援を行っている。以前は職員と一緒に買い物に出かけたが、コロナ禍は、職員が買い物代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ電話連絡して頂いているが、その状況や認知の症状に応じ判断し対応している。お孫さんと手紙のやり取りをしている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や天候に応じ、快適な温度湿度管理を行っている。また、季節を感じて頂ける様リビング等に花を飾ったり、天候によっては照明を調整している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内での生活は自由にして頂いている。一人で過ごしたい場合には居室で過ごして頂いたり、リビングでは利用者同士でテレビを観ながら談笑し、楽しい時間を過ごす事も出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	利用者の方が自宅の空間と同じ様に安心して生活できる様、慣れ親しんだ家具や寝具を設置し過ごして頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体機能・理解能力に合わせた支援を行っている。居室でもリビングでも安全に生活できる様、夜間はポータブルやセンサーの設置、ベッド柵なども個々に合わせ取り付けなどしている。		